

平成 19・20 年度 JSL カリキュラム実践支援事業実施報告書【授業実践】

実施団体名【 大阪府教育委員会 】

1 学習活動の実際

(1) 活動名 「 ウミガメのはまを守る 」	
(2) 対象児童の実態 (8人)	
A 児	第4学年 国籍(中国) 母語(中国語) 在籍年数(10年) (日本生まれ) ・学習の中で使われる語彙を理解していないときがある。そのため、文章を読み取ることはまだ充分ではない。
	B 児
C 児	第4学年 国籍(中国) 母語(中国語) 在籍年数(8年) (日本生まれ) ・日常会話は上手になってきている。分からない語彙があれば、別の言葉に置き換えて伝えたいことを話すことができる。
	D 児
E 児	第4学年 国籍(中国) 母語(中国語) 在籍年数(10年) (中国生まれ) ・日常会話には問題なし。文章の内容はほぼ理解できている。
	F 児
G 児	第4学年 国籍(中国) 母語(中国語) 在籍年数(10年) (中国生まれ) ・日常会話には問題なし。人の話を十分理解して聞き取ったり、自分の伝えたいことを分かるように話すのは少し苦手である。
	H 児
(3) 目標	
◇【教科指導の目標】	
・言葉と言葉や文章のつながりを考えながら、「つながりマップ」を作成する。	
・自分の考えを持ち、わかりやすい文章で書く。	
◆【日本語指導の目標】	
・文章の大まかな内容は読み取ることができる。	
・考えたことを伝え合うことができる。	

2 学習活動

指導者（教科担任，学級担任），指導補助者（外国人指導コーディネーター，外部指導員，等） 日本語教室担当 4 名			
全体の時間数（13 時間）			
学習活動の状況，指導内容	活動方法	指導上の留意点	有効だった指導等 ◇教科指導について ◆日本語指導について
<p>○「ウミガメのはまを守る」の意味段落一（形式段落 1～6）を聞く。</p> <p>○ウミガメについて知っていることを発表する。</p> <p>○意味段落一を，二人で交替しながら音読する。</p> <p>○お互いに分からない言葉について話し合いをする。</p> <p>○二人で協力してワークシート（文のみ）の文に合う写真を選ぶ。（形式段落 1～6）</p> <p>○どうしてその写真と文を合わせたのか理由を発表する。</p>	取り出し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話を聞いて内容のイメージをもたせる。</li> <li>・御前崎町の位置を知らせ，ウミガメについて知っていることを発表する。</li> <li>・分からない言葉があれば印をつけさせる。</li> <li>・分からない言葉の意味を二人で話し合って考える。</li> <li>・二人とも分からないときは全員で考えたり，支援者が教えたりする。</li> <li>・文に合う写真を選ぶことで，一段落あるいは二段落ごとの内容を読み取らせる。</li> <li>・ルールを説明する             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 二人で交替して読む。</li> <li>② 二人で文に合う写真を見つける。</li> <li>③ 二人で理由を考え，話し合う。</li> </ol> </li> <li>・理由をつけて説明させる。</li> <li>・文カードを貼って，発表の仕方を説明する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">この写真を選びました。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">どうしてかと言うと～からで</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">す。</div>	<p>◇ [AU:A-2 知識の確認をする]</p> <p>「～について知っていますか」</p> <p>◆ [AU:B-3 疑問を抱く]</p> <p>「どこがわかりませんか」</p> <p>◆ [AU:A-1 知識を確認する]</p> <p>「～は何といいますか」</p> <p>◇ [AU:D-4 操作する]</p> <p>「～なのはどんな時ですか」</p> <p>◆ [AU:D-6 作業の仕方に着目する]</p> <p>「どういう順番でしますか」</p> <p>◇ [AU:J-6 結論づける]</p> <p>「どうしてですか」</p>

### 3 成果

#### ①対象児童に対する成果

- ・日本語教室でおこなった、文章に合う写真を選ぶ学習は、児童にイメージを持たせるために有効だった。
- ・在籍学級の授業では、日本語教室の学習でイメージしたことを思い出しながら、大事な言葉に着目することができ、意欲的に「つながりマップ」を作成することができた。

#### ②その他

##### ○在籍学級児童

- ・在籍学級では、この教材は、大事な言葉や事柄をまず児童一人一人が自分のレベルに合わせて「つながりマップ」に整理し、それをみんなで確認していくという形態で行われた。「つながりマップ」を作成することで、文章の内容を理解し、ウミガメを保護する人々の思いや願いを考える学習につなげていた。ワークシートに書いて自分の考えを整理し、発言するので、全員が意欲的に学習に参加することができていた。

##### ○学習環境

- ・授業の目的を同じとし、在籍学級と日本語教室とが連携した授業作りを試みることができた。

### 4 課題

- 日本語教室では、教科書にあるものよりたくさんの写真を使い、イメージを作る手助けをした。そして、全員が発表する機会を設けた。在籍学級では、「つながりマップ」は全員意欲的に作れても、いつも全員が自信を持って発表できたわけではなかった。
- 発表という形で自分の考えをもっと発信していけるよう、在籍学級と日本語教室が連携して考えていくことが今後の課題である。